

【 会 議 録 （ 概 要 ） 】

実施日時： 平成 30 年 8 月 31 日(金) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 40 分

会議名	越谷市行政経営審議会 平成30年度第1回会議	実施場所	越谷市役所 本庁舎5階 第1委員会室
件名/議題	【平成 30 年度第 1 回会議】 1 開会 2 議事 (1) 越谷市総合戦略の進捗状況の報告について (2) 第 6 次越谷市行政改革 平成 29 年度取組結果報告について 3 閉会	会議資料： (■有 □無)	
出席者等	出席委員 安嶋委員、宇田委員、延寿寺委員、大野委員、大谷委員、栗田委員 田中（茂）委員、田中（由）委員、手塚委員、戸張委員、横家委員 欠席委員 浅井委員、延与委員、小室委員、坂本委員 説明員 山元政策課長、山崎政策課副課長、吉岡政策課主事 事務局 利根川行財政部長、高橋行財政部副部長、大熊行政管理課長 行政管理課：中山主幹、相田主幹 傍聴人 なし		

●主な意見等 （次ページへ続く）

【平成 30 年度第 1 回会議】

(1) 越谷市総合戦略の進捗状況の報告について

- ・ 越谷市の観光に一つも目を向けていないのではないかなという気がしますけど、これはいかなものか。街の中のシャッターが多過ぎるのではないか。
- ・ 越谷の情報を全国に拡散しているのかどうか、もう少し拡散してもいいのではないか。アピールの仕方があるのではないか。
- ・ 越谷の情報を拡散するというところにちょっと手を抜いているような気がする。越谷の甲冑、ひな人形。煎餅が何で草加にとられているかなどということも考えていただきたい。
- ・ 埼玉県庁観光課にパンフレットが置いてあるコーナーがあります。その中で、越谷市のパンフレットを置いていなかった。在庫が切れたと説明があったが、手配りのようなものでも結構なので、汗をかいていただいてPRを行うというのが必要ではないか。
- ・ それぞれの観光地のPR、お互いの地域のよさを知っていただくという大切さがある。（複数の自治体を通じた観光PR）
- ・ 広告収入、例えばその自治会館の一部を使わせて自治会館の収益につなげることを検討してほしい。
- ・ 基本目標2の施策②「“こしがや”の情報を積極的に発信する」という部分の越谷市観光協会ホームページアクセス数の「事業の具体的な取り組み内容や工夫した点」というところで、旬の情報を適切なタイミングで提供したとあるが、これは具体的な取り組み内容や工夫の説明とは言えないのではないか。
- ・ KPIを使ってなるべく具体的に効果を見るのが総合戦略の趣旨だと思うので、そのあたりをきちんと再現するためにもより具体的な数値を入れていくということで、取りまとめの政策課からも担当課に説明してほしい
- ・ 自治会の加入世帯を増やすことについて、今の世情にあったコンセプト、例えば50年前からの運動会を一緒にやりましょうと、コミュニケーションを図りましょうと、それから浄水場をつくりましょうと、排水溝を整備しましょうというコンセプトではなく、今は安心と安全がテーマにな

っているのではないか。どうやってお年寄りや子供を地震のときに守るか、水害のときに守るか、あるいは空き巣、自転車泥棒などに対してどうするのかと。これらを具体的に取組んでみれば、自治会の必要性について住民の方は理解してくれるのでは。

- ・自治会加入問題について、同じ共感の持てるような趣味嗜好、集まり、サービスなどSNSなどを活用し、積極的な情報発信をしてはどうか。
- ・自治会の未加入問題をきちんと分析して、それに対応した政策を打ち出すというのが必要になってくると思う。特に、分析の部分は行政が行い情報提供しても良いのではないか。
- ・越谷には郷土研究会という会があるが、その方たちがいろんな資料を公開して、皆さん講座をやってくれている。貴重な資料を一括にまとめられるような越谷市の郷土資料館を何とかつくれないか。

(2) 第6次越谷市行政改革 平成29年度取組結果報告について

- ・助成金と補助金の使い道の違いを支給する側の市の担当はその辺を明確にして、最終的に会計監査すべき。
- ・歳入確保の取組みについて、毎年継続して収入が確保できるという実績であり、非常に結構だと思います。引き続きご尽力いただきたい。

<歳入確保の取組みの案について>

- ・空き家について、第三者委員会を市がつくって、これはもう人が住めるような家じゃないとかを決めた住宅については更地・空き地とみなせば、固定資産税の相当な収入になるのではないか。早く処分しようと、更地にしようと、あるいは売却しようとなれば、地域の安全・美観・環境の効果も非常に大きいのでは。
- ・駅前ビジョンに企業の広告と市のPRができるようなものがあつたら、増収と人口増加の何か手助けになる可能性はある。
- ・いちごタウンはイチゴ狩りで終わってしまうので、秋以降もブドウ狩りができるとか、果実狩りができるというような、要はほかのところから来て楽しめるようなものを果物狩りで観光客を誘致できるのではないか。
- ・市民活動支援センターの貸し会議室として個人事業主さんとか、創業支援とか、そういった小さい規模の事業者様が使えるような何かスペースを設けるなど有効な使い方を検討してほしい。
- ・住民参加型、それから地域参加型のまちおこし、これが税収のアップ、観光事業としての収入のアップ、それから魅力あるまちづくりになるので、ぜひこのような方向性も検討してほしい。
- ・阿波踊りなど、地元企業や住民の積極的な参加による住民（地域）参加型の町おこしを進めることで、税収のアップ、観光事業としての収入のアップ、それから魅力あるまちづくりを目指してほしい。
- ・「安心・安全」を越谷の魅力としてPRしてほしい。（土地が平坦で、がけ崩れなどの災害があまりない）
- ・何でもあるのが越谷だよと、いろんな手法を使ってPRすることが大事なのでは
- ・今まで区画整理をやったり、レイクタウンを誘致したりしてきたが、大規模工業団地など新しい企画のものをきちっと整備していただいて魅力アップをしていくという視点が大事だと思う。

(3) その他

- ・物産館やガーヤちゃんだけじゃなくて、越谷出身のオリンピック選手、スポーツ選手、著名な方、そういった方に協力いただいて、PRしてもらおうのはどうか。

【次回会議】

次回会議の開催予定は後日文書で通知。

平成30年8月31日

越谷市行政経営審議会 平成30年度第1回会議

次 第

1 議事

- ・ 越谷市総合戦略の進捗状況の報告について
- ・ 第6次越谷市行政改革 平成29年度取組結果報告について

2 その他

○議長 それでは、始めさせていただきます。

本日の議題は、総合戦略の進捗状況と、市の歳入確保策についてが、予定されております。早速ですが、越谷市総合戦略の進捗状況の報告について、事務局から説明をお願いいたします。

○政策課長 政策課の山元です。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、まち・ひと・しごと創生越谷市総合戦略の進捗状況につきまして、ご報告をさせていただきます。

まず、総合戦略の概要や進行管理の考え方についてご説明をさせていただきます。

総合戦略の策定の経過でございますが、平成26年11月、少子・高齢化、人口減少への的確な対応や東京圏への人口の一極集中を是正し、将来にわたって活力ある日本社会を維持するために関連する施策を総合的かつ計画的に実施することを目的としまして、まち・ひと・しごと創生法が制定をされました。同年12月には、同法律に基づき、国全体の人口の現状と将来の展望を提示するまち・ひと・しごと創生長期ビジョン及び平成27年度から31年度までの5カ年の施策の方向性を示すまち・ひと・しごと創生総合戦略が閣議決定をされました。さらに、国と地方が一体となり、中・長期的な視点で取り組んでいく必要があることから、地方自治体に対しまして、人口ビジョンと地方版総合戦略の策定が求められたものでございます。

本市では、平成33年ごろまで緩やかな人口増加が見込まれるものの、その後、減少傾向に転じることが見込まれておりまして、総合戦略策定当時の合計特殊出生率1.29のまま推移しますと、平成72年の人口は約26万600人となることが推測をされております。

この推計からわかりました人口減少の克服、地域経済の発展などの課題や本市の実情を踏まえまして、平成28年3月に越谷市人口ビジョン及び越谷市総合戦略を策定したところでございます。

まず人口ビジョンにつきましては、資料の概要版、参考資料1－①として配付をさせていただいております。

人口ビジョンにおいては、人口の状況と将来の見通しを分析し、右下に記載しておりますけれども、本市では平成72年に約29万7,000人の人口を維持することを目標としており、人口ビジョンを総合戦略において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて、効果的な施策を企画立案する上で重要な目標と位置づけをしております。

次に、総合戦略についてご説明をいたします。

同じく概要版を参考資料1－②として配付させていただいております。

総合戦略においては、さきにご説明させていただきました人口ビジョンから見えてきた課題を解決するため、右下の(2)に記載させていただいておりますが、まず1つ目、雇用の創

出、農・工・商業の発展、2つ目としまして、越谷市の魅力発信、3つ目としまして、若い世代の結婚・子育て支援、4つ目としまして、安全・安心な地域づくりの4つの基本目標を設定し、具体的な施策について数値目標を持って取り組むこととしまして、5カ年度の政策目標や政策の基本的方向、具体的施策等をまとめております。

続きまして、総合戦略の進行管理についてでございますが、総合戦略につきましては、課題に対する適切な数値目標等をもとに実施しました施策事業の効果を検証するという一連のプロセスを実行していくことが重要とされております。

施策事業の効果・検証につきましては、その妥当性、客観性を担保するため、外部有識者等を含む機関で行うこととされていることから、本市の総合戦略の効果・検証につきまして、本市政の重要事項について調査・審議を行っております本審議会において報告をさせていただいております。

それでは、これから進捗状況の報告についてご説明をさせていただきます。

資料1、まち・ひと・しごと創生越谷市総合戦略進捗状況の報告書の1ページをごらんいただきたいと存じます。

初めに、(1)目的につきましてですが、本報告書は、人口ビジョンにおける人口維持の目標と総合戦略に掲げた4つの基本目標の実現に向け、総合戦略に掲げる施策の着実な推進を図るため、実施しました施策・事業の進捗状況を把握し、効果検証を実施することを目的としております。

次に、総合戦略の進行管理についてご説明いたします。

恐れ入りますが、本日お配りしておりますA3の横の体系図をごらんいただきたいと存じます。

まず、一番左の人口ビジョンにおけます平成29年に約29万7,000人の人口維持という目標の実現に向け、先ほど申し上げました4つの基本目標を掲げ、その横に6つの数値目標を設定しております。

次に、各基本目標の達成に向けた施策の方向性を示し、その横に13の具体的施策を掲げております。

そして、各具体的施策に沿いまして、37の重要業績評価指標、いわゆるKPIを掲げ、関連する具体的な事業を示しております。

そして最後に、今後検討していく施策としまして、基本目標に沿って15の施策を掲げさせていただきます。

本報告書では、6つの数値目標、そして37のKPIの目標値に対する平成29年度の進捗状況及び15の今後検討していく施策の平成29年度の検討状況について報告をさせていただきます。

お手数をおかけいたしますが、進捗状況の報告書へお戻りいただきまして、2ページをごらんいただきたいと存じます。

(4)の総合戦略の進捗状況につきまして、①としまして算出方法としましては、計画期間内にどの程度進捗が図れたのかをわかりやすく示すために、枠内に記載しているとおり、目標達成率がゼロ%からのスタートとなるように算出し、各指標の成果を示しております。

次に、4ページをごらんいただきたいと存じます。

ここからは、4つの基本目標ごとの平成29年度末の進捗状況について、進捗率、そして現在の進捗状況、今後の見通しなどをお示ししております。構成としまして、各基本目標の数値目標、具体的施策、今後検討すべき施策、まとめの順に記載し、その後のページにおきましては、各数値目標、KPI等の進捗状況をお示ししております。

本来であれば基本目標1から4まで順にご説明させていただくところでございますが、時間の都合上割愛させていただきますので、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、22ページをごらんください。

こちらは総括となりますけれども、KPIにつきましては、37事業のうち、計画どおりに進捗しているものが29事業、計画よりおこなっているものが5事業、平成27年度で事業が終了しているものが3事業となっており、事業が実施されているもののうち80%以上が計画どおりに進捗していることから、取り組みが着実に進捗していると考えてございます。

また、数値目標につきましては、進捗率にはあらわれていないものもございまして、具体的な施策はおおむね着実に進捗していることから、目標達成に向けて着実に進捗しているものと考えております。

さらに、今後検討する施策につきましても、15施策のうち7つの施策で事業展開が進んでおりまして、総合戦略の取り組みが全体としまして進捗しているものと考えております。

なお、人口につきましては、平成27年に人口約29万7,000人の人口維持とする目標と比較したところ、平成30年度の推計人口33万8,749人に対しまして、実績値としまして34万1,095人ということで、2,346人のプラスとなっております。今後につきましても、目標値を上回る人口の維持に向け、事業の取り組みを推進してまいりたいと考えています。

なお、本報告書につきましては、本審議会後、市長決裁を経まして、ホームページや各市議会議員のほうに情報提供を行っていきたいと考えております。

簡単ではございますが、説明につきましては以上でございます。

○議長　それでは、本件に関しましてご意見等ありましたらご発言をお願いします。

○委員　越谷の魅力を全国に発信し、人を呼び込むとあります。最近、レイクタウンとか、いろいろ施策が出てきておりますので、着々と効果が出てきているといえればそれまでのですが、私は丸ノ内に勤務しておりまして、同期、先輩、後輩を見ると、住所が湘南というのが多い

んですよね。横浜、それから鎌倉。それで、その次が千葉、埼玉というのは、東京を中心にして非常に少ないというか、ランクでいうと3番目になるですね。しかも、その埼玉の中でも浦和、大宮に比べると、草加、越谷というのはまた1ランク下。こういうことなので、この辺はこの数値目標に入れるのは非常に難しいことだと思いますし、恐らく100年、200年の歴史の積み重ねだと思うので、一概には言えないと思いますが、この施策を考えたときに、そういうような数値にあらわせない、あるいはトータルの文化的な越谷の実力というか、評価というか、そういうものはどの程度まで検討されたのか、教えていただけますか。

○事務局 総合戦略は、平成27年度からの計画期間となっております。

総合戦略を策定するに当たって、まず人口推計を考えた際には、やはり将来、越谷市も全国の傾向と同様に減少傾向に転じることが予想されています。

そのような状況の中で、総合戦略においては、環境経済部の観光課を中心としまして、魅力発信をどう考えていくかというところに焦点がございました。

その際には、先ほど湘南等といった観光資源が豊かな市と比べると若干観光資源が足りないという認識がございました。

そういった中で、例えば基本目標2の資料の11ページにございますが、施策①にぎわいと活力を創出する観光の振興を図るというところで、K P Iの名称が新たな都市型観光を確立として、従来ある越谷市の観光資源をまず探しましょうよ、掘り出しましょうよと。そういった中で、次に現在ある観光資源についても今度はブラッシュアップをやっていくと。あとは、やはり他市の観光資源と比べますと若干弱いということで、観光資源についての歴史等を考察しながら、ストーリー性を持たせる等といったことについて議論が出たように記録が残っております。

今年度でいいますと、本市の魅力発信として、バスケットボールチームの越谷アルファーズを本市が全面的に支援していく等といったことがございます。

今後につきましても、既存の観光資源のブラッシュアップと併せて、新規の観光資源の掘り出し等を行い、本市の魅力発信に努めていきたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員 市内には観光資源が多々あります。

レイクタウンのイオンショッピングセンター、あれだけのものができ、人は集まっています。でも、越谷市の観光に一つも目を向けていないのではないかなという気がしますが、これはいかがなものか。街の中のシャッターが閉まっている店舗が多く、人が少ないと思います。

それから、レイクタウンばかりに人が行って、年間何千万人が行っていますなんていう報道ばかりしていますけれども、越谷駅前乗降者数が増えた。増えたといっても数万人で

す、年間で。何千万人というレイクタウンの駅から比べると数万人という程度のものです。それも駅前にガーヤちゃんの蔵屋敷ができたから、それで増えたのだという一部の方の意見も聞いています。これは全く関係ありません。越谷駅で降りて越谷市内に来てくれる方はほとんど、あのガーヤちゃんのためじゃありません。このデータはどなたがとっているかご存じですか。

私ここで一番気になったのは、数値の記載の内容です。基本目標における数値目標、要するに郷土愛を表現した数値データ、11ページの上の数値を見ていただくとわかんと思いますが、ここに書いてある進捗状況の左の現況値、進捗率は良いとしても現況値、15ページの現況値、その次の19ページの現況値、この数値の差はなんですか。これはどちらで出した数値でしょうか。進捗状況、11ページの場合は47という数字ですね。15ページの数値は64という数字です。19ページに関しては73.7という数値、これは課によって違うのでしょうか。これは観光課と政策課です。前半、11ページの数値は観光課です。あと2つは政策課です。この数値の出し方そのものから見ても、何かデータのとり方がちょっと気になってしょうがないです、この報告、内容を見ていても、いろいろなところがあるのですけれども。

ガーヤちゃんの蔵屋敷について、どの部署が管理・監督して、運営している方はどなたなんでしょうか。もうちょっと明確にしてもらいたいと思うのですけれども、あちらに入っている業者さんからの苦情といいますか話が出ました。あそこに出店するのに販売手数料を30%頂戴したいと。これは、こちらを監督している市の部署はご存じなんでしょうか。商品を販売していただくだけで30%の販売手数料を頂戴するというようなシステム。建築業界でも工務店でもせいぜいいいところ15%ですね。電気工事をやっても、上乘せして10%乗っていたら大きいなあ、7%にしてくれと。入札しても自動的に行政でカットするというか、下げてください、ご協力願いたいと行政からお願いするのはせいぜい5%、7%ではないか。あちらで商品を販売していただくだけで、あそこで運営している方に販売手数料を頂戴するといって30%引かれているという現状。担当の部署で把握できているのかどうか、それを後で確認をとってください。

それから、それを実は利益が出ていないので35%に上げたいという通知がこの事業者に来たという話をついこの間聞いたばかりです。

先ほどの委員の発言のように、越谷の情報を日本国中に広げようというのはどの部署でしょうか。どの部署が幹事としてやっていらっしゃるのか。この情報を発信するための部署はどちらなのか。

それで、どこの部署がどういうことをしているのかというと、私もちょっと調べたのですが、ガーヤちゃんの蔵屋敷にあるチラシを見ても微々たるものです。あれだけではお客さんを呼ぼうなんて、あそこに飾ってあるだけじゃ呼べません。インターネットを使ってやって

いますって、誰がやっていますか、やっていません。ホームページをつくられていますけど、市のホームページを管理しているのはどこの部署ですか。越谷の情報を全国に拡散しているのかどうか、もうちょっと拡散してもいいのではないかなと私は思っています。

越谷の情報、ついこの間テレビ放送をやりましたけれども、見た方の半数以上ががっかりしています。もうちょっとアピールの仕方があるのではないかな。もうちょっといい方法を模索したいなというふうに思っています。南越谷の阿波踊りだけで満足していて、何か情報を拡散するというか、越谷の情報を拡散することによってちょっと手を抜いているような気がします。越谷の甲冑、ひな人形。煎餅が何で草加にとられているかなどということも考えていただきたい。そのほかには、今もう日本で世界的に一つだと思えます、籠染めという情報、テレビでついこの間やりました。あれも見た方もほとんどいなかったみたいで、見た方はびっくりしています。こんなにすばらしいものが越谷にあったのかと。

観光業界さんと観光課の方がもうちょっと努力していただければ、先ほど委員がおっしゃったような、越谷に住んでみたいという気持ちがあらわれるんじゃないかなと思います。越谷を余りにも知らな過ぎるという。

○議長 今のお話は提言ということでよろしいですか。

○委員 はい、結構です。

○議長 たくさん提起いただきましたので、これは観光課に間違いなく伝えていただいて、生かすようお願いしたいと思います。

○委員 22ページの総括、その下のほうの段に、平成72年（2060）年に人口約29万7,000人の人口維持とする越谷市人口ビジョンの目標推計値と実績値を比較したところ、この三、四行目ですが、安定した行政をやっていくためには単純明快に人・物・金だと思えますよ。

それで、現状の越谷市で人口をふやそうとすると、もちろん人口がふえることによって税収も上がってくるので、結果的にレイクタウンを中心にして、市の政策のこういう面については、なるべくバランスをとっていくよりも、レイクタウンに人が集まるように、それで人・物・金で、物についてはやっぱり観光資源というか観光ですね。そのほか先ほど委員から出たように、阿波踊りだとか、ガーヤちゃんだとか、それからどこも全国都市でやっている花火大会だとか、いろんなものが考えられるわけですけども、総合的に現在2,346人増となっている。

それで、平成72年。34万1,095人から29万7,000人を引きますと約4万4,100人のマイナス、この辺まで見込んでおられるのですが、安定した行政の人・物・金でやっていくと、はっきり言って、現在越谷市にはレイクタウンしか得るところがないんですよ。したがって、レイクタウンに期待をかけていると思うのですが、政策課としては、この4,950人、平成72年に少なくなってしまう、これを現状維持か、マイナスになるか、その努力をこれからしてい

かなくてははいけないと思います。したがって、その辺の努力をちょっとお聞かせいただきたいと思います。

それと、レイクタウンから当初予定したような税収が、人・物・金ですから金がなければ安定した行政はできませんので、その辺、どのぐらいの予想値から現在の状況で、予想した最初の予想値から現在まあまあの推移をして進展している、ないしは進捗しているというふうに総合的にもうちょっと簡単で結構ですから、その辺の考え方といいますか、進め方をもうちょっと掘り下げて教えていただければなと思います。

○事務局 まず、越谷市では、人口は微増している状況でございます。この要因は、レイクタウン地区の増加によるものと認識がございまして、本市としましても、レイクタウン地区の人口増加が止まることも視野に入れながら、そのような中での歳入の確保、そして歳出の削減等々を計画しているところでございます。

具体的にというお話ですが、きょう追加資料で配付しましたA3の資料の「15の今後検討していく施策」については、越谷市総合振興計画に具体的に明記されている内容ではございません。

今後検討していく施策として、道の駅の整備、2番目には新たな流通・工業系土地利用がございまして、荻島地区につきましては、先立って流通・工業系の土地利用をしていくため、総合振興計画を変更した経過がございまして。

そういった中で、流通・工業系の土地利用を行い、企業を誘致することで、税金の増収や雇用の創出等、歳入の確保に取り組み始めているところでございます。まだ、こちらにつきましては事業化の決定はしておりませんが、人口減少等を視野に入れる中で歳入の確保ということを十分今後取り組んでいきたいと考えてございます。ほんの一例ですけれども、そのような取り組みを想定してございます。以上です。

○委員 わかりました。中核市になったのですから、ぜひ、今おっしゃったように、今後の越谷市の発展を考えて、中核都市の現状を少しでも維持推進していただきたいと思います。

○委員 これは苦言になってしまうかもしれません。30年度の初めに埼玉県庁へ参りました。観光課にパンフレットが置いてあるコーナーがあります。その中で、越谷市だったか、パンフレットを置いていませんでした。早速、私、パンフレットがないよと。そうしたら、回答が「切れちゃいました」ということで、切れたなら切れたで、今まで満杯にあったものがそれだけはけたんだという認識でいたわけですけれども、もうちょっと切れる前になるべくマメな動きというか、もうちょっと汗をかいていただく、ネット発信だけで人数がふえると私思っておりません。南越にしても、人の流れるところ、手配りのようなものでも結構ですから、汗をかいていただいてPRを行うというのが必要じゃないかなということをもまず1点感じました。

それと2点目、たまたま次女のお友達が、神奈川、江ノ島、茅ヶ崎のほうから遊びに来まして、湘南の地区の地酒ということで1本日本酒を頂戴しました。それで、私もたまたま越谷の純米酒があったので、それを持って帰っていただいて、それぞれの観光地のPR、物々交換のようなものになってしまうけれども、お互いの地域のよさを知っていただくという大切さを今日感じたところでございます。

3点目は、資料1の19ページですね。4本の基本柱のうちの4番目の柱、安全、安心、快適に住める地域をつくるというところの中で、3月に送っていただいた29年度の締めの資料2で、事務事業評価等実施経過報告という資料の中の23から24ページの中に、市民協働部の市民活動支援課さんの自治会の振興事業というのがございます。24ページの一番上の段の中に、自治体への交付金、これを私最近まざまざとこういう現状があるということ把握した次第ですけれども、自治会が数百ある中で弱小自治会、例えば世帯数が100とか120、130、それでこの24ページに書かれている市の支援金、補助金が約700万円弱でしたかね、それをいただくとすると、例えば仮に100世帯だと、年間に7万円の活動費しかもらえないわけです。それで、その7万円の活動費でその自治会は一切何をやるのか。これは、地域自治会の高齢者の親睦活動か、それも1回か2回やれば終わるというぐらいに私捉えているわけですが、近隣地域の同じ釜の飯の運動につながるということで、自分で越谷近隣自治会の同じ釜飯運動というふうに勝手に名づけたのですが、ある程度、私も建築設計監理事業協同組合も市と防災協定を結んでいます。その防災協定を結ぶ団体、ほかの団体さんもいらっしゃる。緊急の場合には食料品を供給する団体であるとか、それと同じような防災協定を結ぶような、そういったものと同じような考えで、例えば越谷は13の大きな自治会の括りがございます。それが集まって連合自治会という体系になってはいますが、その13のうち、この仕事再生の戦略のこの中にも入りましたように、13のうち7カ所だけは大型館の施設が整備されていて、6館がまだ未整備。その6館の未整備の中の1つの弱小の今私が例に挙げた100か120の自治会というのは、何もできない状況であります。

そこで、提案ですけれども、大きな世帯数、500、600ある自治会もあります。その中には、地域性もありますが、住宅だけじゃなくて商店もある。町工場をやっている人もいる。そういった産業や工場をやっている人もいる中の自治会もあって、その自治会とその近隣の100、120、150の弱小な自治会との協定、これを一定のルールやそれぞれのお互い自治会館同士のソフトな還元率を決めながら協力し合えるのではないかと今私考えております。

その自治会がある程度豊かになって、自治会館の建て替えも行うことができる。地域住民のためには、自治会館の建て替えを行うことによって、いろんな活動、子育て支援活動もできる。それから、あとは広告収入、例えばその自治会館の一部を使わせて商品説明や自治会館の収益につなげることもできる考えております。

もうちょっと何か協力体制、もっとソフトな面で考えるなら何かできるのではないかな、市の財政を100%、120%使わなくても、10%、20%底力で自治会に収益を上げて、もっと豊かになるのではないかと、私を私は考えています。

それで、ある例ですけれども、29年度の11月号の「広報こしがや」のお知らせ版の9ページ目でしょうか、左上のほうに小さく「協働の担い手たち」ということで出ております。これは、越谷の大里東自治会ということで、平成27年か26年だったか、竜巻の被害にあった自治会です。

これは、空き家利用をうまく利用しまして、NPO法人住宅推進協議会の方と我々、建築士事務所協会のメンバーが文教大学の学生たちと協働しまして、空き家を利用させた一例です。これは、そこで収益を上げるというわけではないですが、私はこういった使い方をRe活用、リ活用の「リ」というと利益の「利」と考えがちですけれども、「Re」、再び、Re活用、リノベートというふうに、再び、再現させるという意味でのリノベート、Re活用というふうに私は捉えております。こういうソフトな考え方が非常に大事だなと。地域が豊かになればまちも必ず豊かになるというようなことを自負しておるわけでございますけれども、その一例を紹介させていただきます。これからの課題だと思います。

- 議長 最初の2点は、パンフレットと地元産品ということで、観光物産のご提言をいただきました。3つ目は、自治会との連携、あるいは自治会の支援のお話だと思います。これは政策課さんを通じて担当課のほうに伝えていただいで、今後の施策に反映していただければと思います。
- 委員 1つが、ガーヤちゃんの蔵屋敷については、一般社団法人越谷市観光協会が民間の業者に業務委託して運営していると僕は認識しております。あと、意見となりますが、資料の11ページ、越谷の魅力を全国に発信し、人を呼び込むという項目のところの施策②“こしがや”の情報を積極的に発信するという部分の越谷市観光協会ホームページアクセス数の事業の具体的な取り組み内容や工夫した点ということで、旬の情報を適切なタイミングで提供したとあるんですが、これは具体的な取り組み内容や工夫の説明とは言えないかなという気はしております。どういう情報を、誰を対象に、いかなるタイミングで、どんな方法で提供、発信したのかという、全部が全部書いたら書き切れないからこういう抽象的な書き方になったのかもしれないんですけれども、ある程度具体的な取り組みとなっている以上は、もう少し内容を掘り下げて書いていただかないと、意見もなかなか言いづらいのかなと、アイデアも出しづらいのかなという印象は持ちました。これは意見、感想になります。
- 事務局 所管課が観光課になりまして、事業主体としては越谷市観光協会のほうが委託をして、実際には株式会社大地という業者が運営しています。
- 議長 先ほど委員がおっしゃったのは、一般社団法人の観光協会が民間企業に委託している

ということですね。じゃあ、スキームとしては今の認識で間違いないということですかね。一応確認だけ。

それから、これはご提言ですかね。実際やっていることが具体性に欠ける部分があるということですが、これは取りまとめている政策課さんのほうである程度お答えできると思いますので、これについて何かあればお願いしたいのですが。事業課とどういうふうによりとりをしてこういうふうな表現になっているとか、その辺をお話いただけますか。

○政策課長 こちらは確かに政策課で取りまとめはしているところでございます。

あとは、こちら資料を作成するに当たりまして、やはりどうしても市全体、こちら総合戦略全体のいろいろ数値目標、施策等がある中で、限られた紙面でこういった形でボリューム感ですとかわかりやすさを検討していたところでございます。

委員のご指摘のとおり、確かにこれだけだとなかなか意見が言いにくいというご指摘がございましたので、今後表現の方法については検討させていただければと思います。以上です。

○議長 私は他の自治体でもこういった関係の委員を結構やっているのですが、埼玉県内のある市では、こういった評価について、外部委員が集まって、この数値って本当に論理的に事業を達成したことはあるのですかとか、かなり厳しい議論を年間七、八回ぐらい集まってやったりしているんです。かなり細かいところまでブラッシュアップするような形でやっているところもあるんですね。KPIを使ってなるべく具体的に効果を見ていこうというようなのが総合戦略の趣旨だと思いますので、そのあたりをきちんと体现するためにもより具体的な数値を入れていくということ、取りまとめの政策課さんからも担当さんにおっしゃっていただくのがいいのかなと思います。

○委員 先ほど自治会の話がありましたが、私、東越谷で自治会の役員をやっておりますけど、ことし1年間。今非常に感じていることは、自治会を辞めてしまう人が多いです。辞める理由というのが、役員をやりたいくないとか、個別な理由があります。また、新しく入ってきた人でも私は自治会に入りたいくないとか、あるいは私は関係ないからいいですとかというような話も聞いて、なかなか自治会に入る人がふえなくて、逆に減っちゃっている状況があって、非常に厳しい状況があります。自治会というのは、趣旨としては地域のコミュニケーションだけでなく、越谷の魅力とか情報発信などの接点もやっぱり自治会の行事とかに出ていると思うので、できれば、なるべく入っていただくような決定打みたいな話をいただければ、役員として頑張りたいなと思います。何かそういうもの、皆さん、何かありますでしょうか。

○委員 自治会の話が連続して出ていましたが、自治会で弱小だと7万円ぐらいしか市のほうから金がもらえない。それで、その7万円じゃ大した活動もできない。今、委員は、何か良い加入させる方法はないのかと。この問題はお金にあると思います。

それで、私も13地区の連合会の会長をやっている方と年に五、六回会合でいろんな話をしておりますが、例えば越谷市にツインタワービル、それでマンションがあって結構入っておりますが、越谷の古い祭りに、自治会の会費を払っていないから、その子供たちのお菓子だとか何かお祭りでもらえるやつをどうしたらいいかという形で、1,000円だとか何か出してくれればそれでいいとか、いろんな取り組みを行っているのですが、自治会に入りたくないという人が非常に多いと、現在。青木並五郎さんが自治会連合会の会長をやっているときもよくその話をしていました。だから、自治会の会費が集まれば、市から7万円でも10万円でもいただければありがたいというような、そういう自治会をつくっていきたいわけですね、本来。なぜ自治会にみんな入りたがらないか。共稼ぎでないからとか、いろんな条件がいっぱいありますよね。だから、その辺は市におんぶにだっこじゃなくて、自治会自体が何かうまい方法を考えないと、これは行く行く自治会がなくなってしまうと思うぐらいに今厳しい情勢だと思います。だから、自治会の連合会、その中に13地区で会長さんがいらっしゃいますから、その人たちのアイデアで、努力で、弱小自治会から最強自治会までうまく維持して、なおかつ弱小はどうしたら中くらいになれるかぐらいに努力する、現状では自助努力だと思います。市にそれをもうちょっと努力して助成してくれよというのは、現状ではかわいそうじゃないかなと思っていますけど。

○委員 先ほど委員の言っていることは確かにそのとおりだと思います。それで、現実的には委員から出た話が自治会にとって一番大きいです。

私は一昨年まで9年間、330世帯、約1,000人の自治会の会長をやっておりました。それで、はっきり申しまして、委員の言うとおりの、自治会のやっぱり自主性だと思います。特に若い人がなぜ加入しないか。一言で言うと、自治会に魅力がないからです。越谷市に魅力があれば若い人はどんどん来る。だから今、魅力をつくろうということで話しているわけですけど、自治会に入るメリット、魅力がないから若い人は入らないという単純明快な現象です。

あとは、自治会のコンセプト。うちの自治会はこういうことをやっているというのをはっきり確立して、それを地域に住む人にPRして、それで共感を得られれば入っていただけると。それが、やれ、お祭りだとか、コミュニケーションだとか、50年も前の古いコンセプトというか、古い感覚でやっているから、そして自治会の役員もはっきり言いまして私みたい70代だとか、私は一番会長をやっておって腹の中で非常に不満を持っている。80を過ぎたおじいちゃんが会長なんかやっている自治会、こんな人がやっている組織で出てくるいろいろな考え方やコンセプトがどうして30代や40代の若い人が入ると思いますか。30代、40代の人だけの集まりで聞いたら、もう自治会に対する批判はすごく出てくるけど、入ろうなんていうことを言う人は誰もいませんでした。だから、もうこれは自治会がそれぞれ、うちの自治会はその地域にとって役割は何なのかというのをはっきりさせると。

それで、実際問題としてできないのがあります。先ほど委員の方々が言うように、100世帯ぐらいの自治会ですと財政規模が小さいですから、自分の自治会館も持てないわけですね。会合もできない。そういう意味では、私の自治会は恐らく越谷でも最強のほうの自治会だったと、財政的にも基盤もしっかりしているし、それからコンセンサスもありました。また、全部地域住民が住宅でした。これが難しいのが、商店と住宅が混在している自治会なんていうのは、コンセプトが非常に難しい。商店の人は地域振興をまちおこしのコンセプトにしてくれと言うし、住民のほうは安心・安全にしてくれと、こういう難しい自治会もあります。だけど、いずれにしても、そこの自治会が住民に何を必要としているものを提供するか、これを考えるのが一番だと思います。

だから、これは市でもいろいろ施策、あるいは先ほど7万円ぐらいという話が出ましたけど、うちの自治会でいうと、300世帯で約3倍、100人に対して3倍ですから、うちは22万5,000円もらっています、毎年。うちの財政規模は先ほど言った330ですから、6,000円の自治会費で約200万円。200万円から220万円、その中で運営しておりまして、そのほかに夏祭りのときには商店、あるいは会社から約40万円の寄附をいただきまして、それで運営しておりますけど、財政的な問題よりも、先ほどご提案がありました若い人が何に魅力を感じるか、感じないから入らないと、ここだと思います。

具体的に言いますと、安心と安全。これはうちの自治会が住宅地の自治会ということがありますけど、もう50年前からの運動会を一緒にやりましょうと、コミュニケーションを図りましょうと、それから浄水場をつくりましょうと、排水溝を整備しましょうと、そういうコンセプトじゃなくて、今は安心と安全です。どうやってお年寄りや子供を地震のときに守るか、水害のときに守るか、あるいは空き巣、それから自転車泥棒、こういうのがふえておりますけれども、これに対してどうするのかと。これを本当にやってみれば、住民の方はわかってくれると思います。それが今の自治会の行くべき、あるべき姿だというふうに確信しています。

○委員 先ほど委員からもお話がありましたとおりで、若い人のなり手がないと。これを解決して若い人に興味を持ってもらおうと。あまりがちがちに、これやあれやは今の若い人には通用しないです。同じ共感の持てるような趣味嗜好、集まり、サービス、そういったものが話の根底になって、それが今後、例えば高齢者の方も、俺もそういうのをやっていたんだよと話に加わってくるような自然に緩やかなつながりが、インスタを使ったり、SNSをうまく利用したりして、それを発信しながら、そこでこういうことをやっているよ、ああいうのをやっているよ、これがとれるよ、とかと言った話からスタートしてもおかしくないと思っています。それが越谷を発展させる基盤かなと感じました。

○議長 たくさんのご意見をいただきましたので、それをきちっと持ち帰っていただいて、担

当課にお伝えいただければと思います。

最近、政策の世界では、エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキングというのが当たり前になってきました。これはきちんとした根拠があって、それをもとに政策を立てるというものなんですよ。これは民間のコンサルティング業界では昔から当然やっていることだと思うのですが、役所の場合は何となく思い込みで政策を始めて失敗するというのがよく多かったのですが、最近はそうではなくて、まずその状況をきちっと診断して、じゃあ何でそうなのかというのをきちっと分析した上で、それに対する的確な政策を立てるとというのが今ムーブメントになっているんです。今の自治会の件もそうですよね。何で入らないのかというのをきちんと分析して、それに対応した政策を打ち出すというのが必要になってくると思うんです。自治会について、みずからの取り組みが大事だというお話が出ましたけれども、その分析の部分は行政がやってもいいと思うんです。これから自治会をどうするかというときに、市役所がどうかかわっていくのかという部分で、その辺は残ると思いますので、その辺も含めてご検討いただければと思います。

○委員 私、越谷に来て約半世紀になります。都内でサラリーマンをやって、定年で越谷に落ちついて、越谷をじっくりと見始めたのですが、私の生まれ故郷と同じように地元のことをいろいろ見させていただきました。良いところがすごくあります。ところが、大変残念ながら、越谷の良いものを残そうという気概、私と同じようによそから来た者たちは越谷を知らない過ぎます。

先ほどの越谷を愛する心、郷土を愛する心は六十何%から四十何%あって、幅広い数値が出てきた。このある程度の範疇は所轄によって異なり、それはもういたし方ないとしても、私が一番今残念に思っていますことは、越谷市の歴史。郷土の寺や神社とか、明確に今徳川家康さんのものが残されているというようないろいろな歴史があるのですが、この歴史の資料がどこの図書館に行っても見つからない。

私は越谷に来て最初にやり始めたのが、越谷の郷土の資料模索です。その資料がどこにも見つからないです。図書館に行って検索しても出て来ませんでした。恐らく教育委員会とか、観光課とか、あるいはいろんなどころにあるのだらうと思いますけど、はっきり言って越谷市に郷土の資料館をつくってもらいたいなと思っています。

皆さん(市外から)来て、越谷のことを何も知らない方が相当いると思います。越谷に甲冑ありといっても誰も知らない。意味がわからない人がいますし、だるまは何のためにつくっているのだらうなどという市民がいました。これは残念でなりません。だるまは何のためにつくっているの、なぜ久伊豆神社で売ると、こういうことを言った越谷生まれの越谷市民40代の男性が2人いました。何とも情けないことなので、越谷の資料館が欲しいなということで、私はこのいろんなことの一環としてちょっと動きを始めています。その一つとして残念

なのが、先ほど話していたガーヤちゃんの蔵屋敷の店先に、ある方がファイルを、自分でつくり上げた越谷の資料、誰がコピーして持っていてもいいように、近くに置いてあるんですね。越谷には郷土研究会という会があるのですが、その方たちがいろんな資料を公開して、皆さん講座をやってくれているのですが、その中にはすごく大切な資料もいっぱいあります。そういうものを一括にまとめられるような越谷市の郷土資料館を何とかつくれないかなというのが私の切なる希望です。

○議長 今のご意見、事務局で適切なところにきちんとお伝えいただいて、こういう意見があったということをご認識していただくということをお願いしたいと思います。

それでは、次の議題に入らせていただきたいと思います。

第6次行政改革平成29年度取り組み結果報告について、ご説明をお願いしたいと思います。

○事務局 それでは、第6次行政改革の平成29年度の取り組みの実績の報告について説明をさせていただきます。

お手元の資料2をご覧くださいと思います。

まず、行政改革とは一般的に事務事業の効率化や経費縮減、財源確保や組織の合理化、あるいは職員数の適正化により効率的で効果的な行政運営を確保し、最終的には市民サービスのより一層の向上を図ることを目的とするものでございます。

越谷市では、昭和60年度から行政改革の取り組みを行っておりまして、平成27年度で終了いたしました第5次行政改革に至るまで、財政的な効果額といたしましては、27年度末の累計で約115億7,100万円の効果額を計上しております。

本日は、第6次行政改革ということで、28年度から32年度までの5年間の取り組みを現在行っておりまして、その2年目となります29年度の取り組みの結果につきまして報告をさせていただきます、ご審議いただくものです。

それでは、1ページの右側の円グラフをご覧ください。

29年度の実施状況ですが、29項目33件の取り組みを実施計画に位置づけております。その進捗状況ですが、実施に至ったものが29件、実施率は88%、取り組みには着手をしたものの成果を出すまでには至っていないというものが2件。検討中というものが2件ございまして、実施した項目の財政的な効果額は、円グラフの下に記載をしておりますが、合計で約1億6,460万円となっております。なお、実施した29件のうち、財政的な効果額の大きな取り組みを、円グラフの下に、大きい順に①から③まで記載しております。

まず、効果額が一番大きな取り組みは、下水道使用料の改定で、1億4,996万円の増収。次に、公共施設への有料広告の設置の推進ということで、市役所内の個々のモニターがございしますが、これを増設したことと、今まで既存の案内板を広告つきの電子による案内板に変更したことによって、広告収入の増額分が174万円の増収。さらに233万円の削減ということ

で、掲示板、案内板について、電子によるものに変更したことによって、例えば組織改正が発生した際に、従来かかっていた修繕料や人件費が削減されるということで233万円の削減、合計408万円の財政的な効果額が確保できたということです。

次に、産業情報ネットワーク（こしがや i i ネット）の情報を越谷市の公式ホームページに移行ということによります経費の336万円の削減ということで、29年度の財政的な効果額の大きなもの3つを上げさせていただいております。

続いて、3ページから4ページにかけては、取り組みの件数33件の全体の取り組みについて、「実施のもの」「着手のもの」「検討のもの」について、各取り組みごとに一覧表にして整理をさせていただいたものです。

この表の中で、黒矢印で示している取り組みが、3ページに2件、4ページに同じく2件ございますが、これは、昨年度から取り組んだ進捗状況が変更になったものをお示ししたものでございます。その結果、4ページになりますが、33件のうち29件が実施に至ったという状況です。

続いて、5ページをご覧ください。

33件のうち実施に至った29件について、その実施の結果の達成状況が当初の計画に比べてどの程度の達成状況になのかというのをアルファベットのA AからCまでの4ランクで表示したものです。これは今年度からの新たな取り組みで、前回、委員から、達成状況についてよりわかりやすく報告書に示すようにとのご意見も踏まえまして、今回このような整理をさせていただいたものです。

まず、29件のうち、計画を上回る効果があったものということでA Aが1件。これは、保育所保育料の収納率の向上ということで、20ページの26番。当初の計画では32年度までに収納率を平成26年度比で0.4ポイント向上させるものですが、29年度の時点で既に0.50ポイントの増ということで、計画を上回る達成状況であったことから、A Aに整理させていただいております。

続いて、5ページ。計画どおりの効果があったものとしてAが29件中27件。

続いて、効果が計画を下回ったものとしてBが1件。これは、税外債権における未収金の圧縮ということです。19ページをご覧いただきたいと思いますが、当初の計画では、平成32年度までに、滞納繰越分の収納率を平成26年度比で4.76ポイント向上させるという計画が、逆に2.32ポイント減という結果になったことから、効果が計画を下回ったB評価とさせていただきました。

続いて、5ページから22ページまでが、33件の取り組みの当初の計画内容と、それに対する効果、さらに達成状況をアルファベット表記したのです。

続いて、23ページから24ページにかけて、33件のうち、平成29年度に財政的な効果額が確

保された10件について、その効果額と内訳を記載しました。

24ページをご覧くださいますと、効果額は1億6,460万3,000円でございますが、その内訳といたしましては、24ページの一番下の欄になりますが、経費の削減が1,496万9,000円、歳入の確保が1億5,082万2,000円。この合計額から投入経費118万8,000円を差し引いた結果として、財政的な効果額が1億6,460万3,000円。

続いて、25ページから26ページについては、33件の取り組みにつきまして、第6次行政改革がスタートした28年度と29年度の財政的な効果額を記載したもので、26ページの一番下に、28年度の効果額として3億1,655万9,000円、29年度は1億6,460万3,000円ということで、第6次行政改革の現時点での財政的な効果額としては、合計4億8,116万2,000円という結果です。

報告書の説明は以上ですが、この報告書はこの後に、市長決裁を経て、最終的にはホームページ、さらに議会議員に提供させていただきたいと考えております。

次に、本日、追加資料ということでお配りをしております資料について若干説明をさせていただきます。

まず、まず右上の参考資料2-①は、第6次越谷市行政改革の大綱で、参考ということでお配りをさせていただきました。

資料2-②は、行政改革がスタートしました昭和60年から現在までの行政改革による歳出入の効果額をそれぞれ整理したもので、先ほど平成27年度末で115億円という効果額という説明をさせていただきましたが、第6次行政改革の28年度と29年度の取り組みの結果、越谷市における行政改革による財政的な効果額の累計としては約120億9,777万円となっております。今後も引き続き行政改革のさらなる推進に努めまして、財政的な効果額の確保に努めていきたいと考えております。

説明としては以上となりますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長 今の説明について、これからご意見をいただくわけなんですけれども、その前に、この報告書の関連で、前回の審議会において、委員の方から越谷市の歳入確保策について意見交換したいとのご要望をいただいております。ご要望の趣旨は、厳しい財政運営を余儀なくされている中で、歳出削減の努力は当然ではありますけれども、歳入の拡大にも知恵を絞らなければならないだろうということで、審議会としても話し合うべきだというようなところ です。

したがって、今の報告書の、資料2の2ページに全体像がありますけれども、一番下の、4-④の財源の徹底確保と新たな財源獲得の推進とこれに該当する事項に関する質疑につきましては、この後の議題にあります越谷市の歳入確保策についての意見交換と一緒にさせていただいたほうがよろしいかなと思いますので、この財源の徹底確保と新たな財源獲

得の推進以外の部分で、まずは意見交換をお願いできればと思います。それでは、歳入確保以外の部分でご意見ございましたら、遠慮なくお願いしたいと思います。

○委員 市民活動団体にしても、様々なイベントにしても、第三者機関の事業等にしても、市から頂いている助成金と補助金というお金を理解している方があまりにも少な過ぎるような気がします。頂いたお金は全部使っちゃえばいいというぐらいの認識しか持っていない方が結構多いような気がします。だから、助成金と補助金の使い道の違いを支給する側の市の担当はその辺を明確にして、最終的に会計監査すべき点で明確にチェックしていただきたいなと思います。

いろんなどころの会計や事業の展開を見ていくと、助成金と補助金との認識の違いによって、これ何に使っているのかわからないというようなところが見受けられました。助成金、補助金でイベントをやって、打ち上げで残ったお金でちょっと飲食しようかというような方が見受けられました。帳簿に適当に書いている方がいたので、市にチェックしてもらったほうが、会計監査をもうちょっと厳しくしていただいたほうがよろしいかなというように思いました。

○事務局 一般的な考え方として、補助金とか助成金を団体に支給したら、本来目的のためにきちんと使用されたかどうかというのが所管課の責任において必ずチェックはしているはずだと思いますので、その辺は引き続き市としても対応させていただきたいと考えております。

○委員 ありがとうございます。

○議長 委員、具体的に何か所かそういうところがあったようなお話をされていましたが、事務局を通じて担当課に情報提供をしていただくということが可能だと思いますので、情報交換させていただければと思います。

○委員 収入増ということで、28年、29年度という結果が出ているようですが、その中で広告収入というのは含まれていたのでしょうか。

○事務局 参考資料2-③をこれから説明させていただく予定でしたが、第6次ということで、越谷市の公共交通のガイドマップの有料広告の掲載、庁内のモニターの増設ですとか、掲示板の増設による広告収入の増も財政的な効果額ということで含ませていただいております。

○議長 今、収入の話がもう出ましたので、収入の確保策のほうに移ってご意見をいただきたいと思います。

もし、それ以外でもご意見あれば、また最後にお話しいただければと思いますが、越谷市の歳入確保策について少し意見交換する前に、この意見交換を要望された委員のほうで、提案趣旨じゃないですけど何かございましたら。特によろしいですか。

○委員 はい、結構です。

○議長 それでは、**参考資料 2-③**の説明をいただいたほかにプラスアルファしてご説明があればお願いしたいと思います。

○事務局 **参考資料 2-③**は、行政改革における主な歳入確保の取り組みの実績を整理させていただいたものです。なお、平成17年度からスタートしております第4次行政改革以降の主なものを記載しております。表の一番上になりますが、資源物の売り払いという項目を記載しております。これは、特に可燃ごみの分別収集を平成18年度からかなり細分化をしたということがございまして、それによりごみの資源化が進んだことで、売り払い収入が増加をしたもので7,936万円の効果額が確保できました。その他、バリアフリーマップですとか、越谷市の産業情報ネットワーク、さらに公用車やホームページなどの広告などに広告を掲載することによりまして、表に記載のそれらの効果額が歳入として確保されたという状況です。続いて、平成23年度から平成27年度までを取組期間とします第5次行政改革の5年間の歳入確保の取り組みは、同様に広告収入の確保ですが、全戸配付の保健カレンダーや、市職員の給与明細書の裏に広告を掲載して歳入を確保する。あるいは、「広報こしがや」のページ数を平成23年度からふやしたことに伴って広告のスペースを確保したことで増収を図る。さらに、庁内にモニター広告を設置することで、本庁舎を初め市民会館や体育館、市民球場等にモニター広告を設置したことによって歳入を確保したというものが主なものです。更に、行政財産の使用許可及び貸し付けとして、小・中学校7校の9棟の屋上に太陽光発電設備の設置場所として民間事業者の有償で場所をお貸しいたしまして、その貸付料として106万9,000円が確保できました。

庁舎内に自動販売機の設置場所を有償で貸し付け、庁舎敷地に電柱を設置する際に、その設置場所を有償で貸し付けたということにより、2,600万円ほど確保できたというものです。

続いて、第6次行政改革については、平成29年に策定した越谷の公共交通ガイドマップに広告を掲載し、庁舎内にモニターを増設したことが主なものです。

以上、越谷市の現在までの主な取り組みを説明させていただきましたので、ご審議いただければと思います。

○議長 それでは、現在行っている歳入確保の取り組みに関する意見交換はもちろんです、委員の皆さん方の中で新たな歳入確保策のようなお考えをお持ちでしたら、そのご提案もぜひ承りたいので、そういったことも含めてご議論いただければと思います。

○委員 一つ感心したのは、これは全部継続性があることです。例えば固定資産の売却なんていうのはそのときに1回限りですけれども、ここに書いてあるのは毎年継続して収入が確保できるという実績だと思いますので、非常に結構だと思います。引き続きご尽力いただければと思います。

それともう一つは、庁内でこういうアイデアを出したら、金一封まではいきませんが、そういう報奨制度はありますか。民間企業ですと1,000万の収入増になったら10万円ぐらい

社長の表彰金が出る。なかなか公務員の場合はそういかないと思いますが、そういう意識が出てきてもいい時代かなと思います。

収入アップの一つとして、提案させていただきたいのですが、空き家の問題で、空き家がある理由は、建物があると固定資産税が安い。確か更地に比べて6分の1ですよ。これは戦後の住宅政策で、なるべく持ち家制度を国民の間に広げようということで、家を建てたら土地の税金は安くしますよということからきているわけですが、この空き家については、逆に更地できれいにしているよりも税金が安い。これはどう考えてもおかしいですね。だから、もちろん個々の事情はあります。相続などのいろいろ理由はありますが、第三者委員会みたいのを市がつくって、これはもう人が住めるような家じゃないとかを決めた住宅については更地・空き地とみなして、固定資産税をもとに戻せば相当な収入になるんじゃないかと。しかも、その収入だけじゃなくて、それによって、それじゃあ早く処分しよう、更地にしよう、あるいは売却しようというふうになれば、地域の安全・美観・環境の効果も非常に大きいわけです。

そういう例が私の地域にもあります。それで、大阪の管理人と何回電話してもらちがあかなくて困っていますけど、その外堀を埋めるといふか、裏から攻めるといふか、しかもそういうことで税収が相当になるといふか。空き家になってから2年、3年の物件や、1年目の物件から全部徴収することじゃなくて、3年経ってもそのままだったら徴収とか、そういうことでやったら恐らく何百万円か何千万円か知りませんが、それぐらいの収入増にはなるといふか。これを一つ、これは行政改革の中のアイテムなのか、それとも市議会で決めることなのか、ちょっと私はその辺わかりません。

それから、税法の問題で、固定資産税の担当が国なのか、市なのか、その辺もちょっとわかりませんが、少なくとも趣旨としては皆さんよくわかっていただけたらと思うので、それを全国で一番どこの市町村にも先駆けて越谷でやったら、それこそ越谷のイメージアップにもなるし、ぜひご検討いただきたいと思います。

○議長 ご提案いただきました。

固定資産税は市の税金ですので、市でお考えいただくことは可能だと思います。ただ、法令で決まっているところを変える分がありますので、どこまで条例等で対応できるかという問題もあるでしょうし、そのあたりを事務的にどれぐらいテクニカルにクリアできるのかということ、ご意見を踏まえてご検討いただければと思います。

事務局で持ち帰っていただいて検討させていただくということで引き取らせていただければと思います。

○委員 この間久しぶりにミャンマーに行って、まちの中に政府の大きなビジョンがかかっている、政府PRをしていました。越谷駅と南越谷は市のPRパネラーがあつて、そこにビジ

ョンで、例えば企業とか市の歴史のもののPRとか、いろんなものができると思います。先ほど自治会の話がありましたが、どこよりもすばらしい自治会がある市といううたい方もあって、駅前でPRするとか、新しいことができるように思います。

それによって、駅に偶然来た人たちが、おお、おもしろい市だねと言ってもらえるような、または企業から見ると、駅前のビジョンに広告を出してもいいかなというのは出てくると思うので、企業の広告と市のPRができるようなものがあつたら、増収と先ほどあつた人口がふえなきゃいけないというところの何か手助けになる可能性はあるのかなというふうに思いました。

○議長 駅前のビジョン広告ですかね。事務局できちんと指示しておいていただいて、検討していただければと思います。

○委員 皆さんご存じだと思いますが、いちごタウン、結構人が来ているんですよ。半蔵門線が都内を通過して越谷に来て、こんな近くで苺狩りができるというのは、いろんな方の評判を聞いて、非常にいいわけですね。

ただ、苺だけで終わっているのです。例えば秋になったらブドウ狩りができるとか、中島のほうには梨園みたいのもありますね。そういう果樹園みたいのをつくるということは可能なのでしょうか。いちごタウンの周りは大分土地が空いているみたいだし、そういうもので半蔵門線に広告を打つということで、都内から何分で来られますよというような、果実狩りができるというような、要はほかのところから来て楽しめるようなものを果物狩りで引っ張り込めないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○事務局 いちごタウンということで取り組みをさせていただいて、新たな取り組みといたしましては、先日新聞報道もされたのですが、メロンを今試験栽培ということで取り組みをしているところです。その辺は、軌道に乗れば、栽培方法等を市内の農家さんのほうに提供させていただいて、苺に次ぐ柱として育てたいというのが市の希望といたしますか、考えとして今あるという状況です。

○委員 駅前の市民活動支援センターにスペースがあるかと思うのですが、現状を見ていますと、学生さんが勉強している、図書館化しているというような使い方がされています。

越谷には個人事業レベルで事業をやっている方もたくさんいらっしゃっていて、例えば貸し会議室のようなもの、中央市民会館もありますが規模が大きく駅からも遠いということもありますので、市民活動支援センターを貸し会議室として個人事業主さんとか、創業支援とか、そういった小さい規模の事業者様が使えるような何かスペースを設けてはいかがかなというふうに思いました。

○事務局 市民活動支援センターにつきましては、趣旨が市民活動に取り組む各種団体の支援ということで、利用に当たってはまず団体登録をしていただいた上で利用いただくというの

が本来だとは考えております。確かに図書館化しているというご指摘もあるかと思うんですが、趣旨としてはそういう形になっています。創業支援ということだと、東越谷にある産業雇用支援センターがございまして、その中に二番館という施設を設けて、インキュベーション施設ということで創業支援に取り組んでいます。また、例えば創業間もない事業者ですか、中小企業の支援につきましては、産業支援課というところが所管になりますので、安価な例えば事務スペースの確保ですとか、その辺、要望といいますか、こういった対応があり得るのかというのは、担当課にお伝えさせていただければと考えております。

○委員 もちろん団体登録するという事は存じております。ただ、何かもうちょっと有効な使い方はないかなというふうにお考えいただけたらと思います。

○議長 事務局から、今のご意見を伝えていただければと思います。

○委員 収入アップと魅力ある越谷というか、これと両方ミックスしたような意見になるろうかと思いますが、先ほど苺園のご提案がありましたけど、私も大変苺園というのは結構なことだと思っております。なぜ結構なことかといいますと、まちおこしというか、越谷市の魅力あるまちづくりは2つあって、1つは、事業参加型というか、企業参加型というか、例えばレイクタウン、それから先ほど説明がありました荻島のほうにターミナル基地をつくる、こういうのはどちらかというとな企業が新しく参入してくる企業参加型。

それからもう一つは、住民参加型。これは古くからいうと、先ほどからもお話に出てきた越谷の阿波踊りですね。かつては全国第2位だったそうで、最近は3位になっちゃったみたいですけど。これは行政が旗を振ってやったのではなくて、一企業が中心になってここまで持ってきた。それで、これには多くの市民が参加しています。苺農園もどちらかというとな、そういう果樹園とか農家の皆さんがうちもやる、うちもやるということでやった結果が越谷の苺狩りということで、東京からも来ている。ただ、残念ながらちょっと高いですね。しょうがないから、私は来年自治会で苺狩りをやろうと思っているのですが、自治会で500円か1,000円応援しようかと。そうしたら、みんな参加してくれるのではないかと。それで、それに続くものを何か今、梨園か何かあるのですか、検討があるということですけども……。

〔「メロン」という声あり〕

○委員 ああ、メロン。失礼しました。

そういうのは、結局地域の農家の方とか、それから園芸に興味のある方が土地を借りてメロン園をやると、そういうことで、こういう住民参加型というか地域参加型。

それで、私は、はっきり言って、魅力ある越谷というのは、この後者のほうだと思います。越谷に住みたいというのは、越谷にレイクタウンがあるから越谷に行きたいとか、トラックのターミナルがあるから越谷に住みたいという人はあまりいない。いるのは、阿波踊りって楽しいねとか、苺園があるそうだねと、メロン園もできるそうだねと、こういう住民参加型、

それから地域参加型のいわゆるまちおこし、これが税収のアップ、観光事業としての収入のアップ、それから魅力あるまちづくりになるので、ぜひこういう方向に行ったほうがいいかなと。もちろんレイクタウンとか運輸ターミナルも税収アップで、それがめぐりめぐって医療費が安くなるということで、若い人は特にそういうのに敏感ですから、教育費が安くなるとか、そういうことは税収があるからできるので、それも非常に必要だと思うので、そっちもお願いしたいと思いますけど、この2本柱でぜひお願いしたい。

それから、私が最初に越谷の魅力の話を提案したときに、湘南とか何かとか出しましたけど、これはもう越谷は逆立ちしたって鎌倉の歴史にはかないません。こういうところでライバル意識を持ったって仕方ないです。では、越谷は何があるかということ、ぜひこれを大いにPRしていただきたいのですが、安心と安全です。これは越谷の大きな魅力です。まず、土地がフラットだということ。ですから、年をとってきても生活がしやすいよと。湘南、湘南といますが、神奈川の金沢八景のほうになんかへ行きますと、年をとったら山の上まで歩いて登るのは大変です。それが越谷は全くない。これは越谷の魅力です。

それからもう一つは、それに伴う災害がない。崖崩れがあるところがないです。平坦だから崖崩れがありません。今度、東京直下とか南海大地震が来ても津波の心配がない。

だから、安心・安全で、阿波踊りがあって、苺園があるという生活のしやすいまちだよということをぜひPRして、先ほどのご意見で駅の広告タワーみたいなのを使ったらどうかということですけど、そういうところで使うのも大いに結構だと思います。

とにかく、そういうことで、安心・安全というのが、これから越谷の売り物になるんじゃないかと。これは企業でもありますが、会社なんかでも昔は安心・安全とか環境問題とかというのは余り銭にならないと、金ばかりかかってということだったがですが、そうではなくて、そういうものを排除する、コンプライアンスにそういうものを掲げる企業というのが非常にやっぱり優秀な企業であると、ぜひ安心・安全というのを具体的に、定量的に評価するのは難しいかもしれませんが、これは文化と一緒にすよね。文化というのも全容的にはなかなか評価しづらい。だけど安心・安全というのは、越谷市の売りになるのではないかと思いますので、これをぜひ先ほどの住民参加型の企業とあわせて進めるように提言させていただきます。

○議長 先ほど委員からは再三安全・安心のお話が出ましたので、事務局で、それをきちっと記憶にとめて、担当課に伝えていただくようお願いしたいと思います。

○会長職務代理 皆さんがもう発言した内容ですけど、やはり魅力あるまちづくりについては、例えば先ほど果樹園構想ってありましたけれども、越谷へ行ったら苺がある、メロンがある、ブルーベリーがあるというような、そういう施設がある。越谷というのは比較的、煎餅が草加に負けちゃってとか、だるまが何だか、そういうものが越谷にもいっぱいあるのですよね。

そういったものが一つにまとまっていない。人形は岩槻だよといったって、越谷だって人形あるよ。煎餅、草加といったって、越谷だって越谷煎餅ってあるよ。それが魅力の発信になっていないというのはなぜかと常々考えていますが、やっぱり何でもあるのが越谷だよと、そういうふうに全国にPRすると。何でもあるのであれば、何でもあることがやっぱり認知できるような集約をするとか、いろんな手法を使ってPRすることが大事なのかなと思いました。

そのほか、税収の面、魅力のまち、人集めの面で、これも意見がありました。産業団地というか、そういったことを考えていくと言ったのですが、市街化区域と調整区域がこれだけバランスがとれている越谷市というのは本当に魅力的だと思います。そういったものも施行しながら、やっぱりある程度、私、調整区域に住んでいますけれども、工場とか、倉庫とか、そういうのが乱立して出てきている。そういうのを放任したままでいいのか。いっそ、それだったら、小さなミニ工業団地とか、幾つかあるのですが、ミニではだめで、大規模なものをきちっと造らないと安心して事業者が寄ってこないかなと、思っています。具体的にはいろいろな難しい面もありますけれども、ぜひそういった、今まで区画整理をやったりレイクタウンをつくったりしながら、越谷市の魅力として人々が多く集まった。それをみんな住居で住んでみたら、じゃああそこはどうなるの。まさに人口減の区ばかりになってしまう。そうではなくて、もうちょっと新しい企画のものをきちっと整備していただいて魅力アップをしていくというふうに、そういう視点が大事なのかなと、率直に思います。

○議長 最後、事務局から何かございますか。

○事務局 次回の日程は未定です。調整の上、改めて委員の皆様にご連絡をさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長 委員の皆様、最後にどうしてもという方いらっしゃいましたら。

○委員 ちょっと言いそびれたことがあります。越谷出身のオリンピック選手、スポーツ選手、著名な方、そういった方に協力いただいて、販売促進であるとか収益拡大だとか、例えば物産館やガーヤちゃんだけではなくて、そういった方にPRしてもらって、それも必要かなということを最後に言わせていただきます。

○議長 ありがとうございます。

それでは、大変長くなりましたが、以上で本日の議事は終了とさせていただきます。長時間お疲れさまでございました。ありがとうございます。